

東海大学大学院 2022年度 家族看護研究会



家族看護学研究室では家族看護を
様々な理論やツールを用いて分析しています。
今回はカルガリーアセスメントモデルを
用いて分析していきます。



事例紹介

出生後、初めて21トリソミーの可能性をICされた両親。母親は悲嘆を募らせ、父親はしだいに面会から足が遠のくようになる。両親は互いの思いを吐露し合うことができず、コミュニケーションはもっぱら「LINEで送ると既読はつく」程度へと減少していく。加えてCOVID-19の影響下による面会制限でNICUには母のみ入室することが増え、看護師は父親の様子を知るすべがない。日齢8日を過ぎ、児の体調は日に日に悪化していく中、看護師は両親へどう介入すべきか困惑している。



プロフィール：新井陽子先生

北里大学看護学部を卒業後、北里大学病院に助産師として勤務。北里大学大学院博士課程を修了。2022年から群馬大学大学院看護学専攻教授で現職。各地でカルガリーアセスメントモデルを用いた家族看護教育と実践の普及に努めている。

【日付】 2023年3月4日（土）

【時間】 13：00～16：00

【会場】 zoomによるオンライン開催



参加ご希望の方は右上QRコードよりお申し込みください

問合せ先：0463-93-1121（代表） 家族看護学研究室 担当:井上
ホームページ：<http://kazokuns.ihs.u-tokai.ac.jp>
メールアドレス：rinoue@is.icc.u-tokai.ac.jp